優良事例の活動・取り組み内容の現地調査

～壱岐地域農業振興協議会　技術者会畜産部会

平成 20 年 1 月 23 日～25 日

■ 取り組みの概要（平成 14 年表彰時の活動概況）

壱岐市は長崎県下でも屈指の肉用牛子牛生産地域である。昭和 47 年頃から本格的な肉用牛振興が図られたが、当時島内に肥育経営が無かったことに加え、離島という地理的条件等から購買者も少なく、子牛価格は低迷し且つ不安定であった。

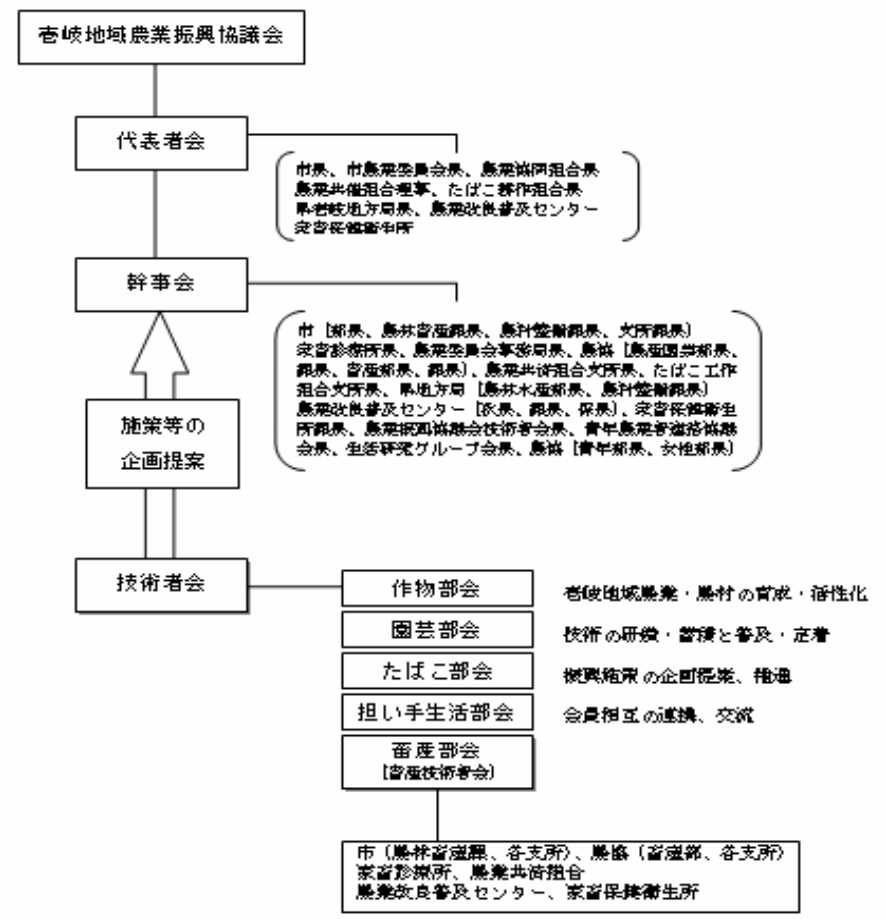
こうした状況を打開するため、当時の支庁・農業改良普及センター・家畜衛生保健所等の県の機関に加え、町・農協・農業共済組合などを加えた島内すべての関係機関が連携を図り、支援体制の一体化を進めるべく壱岐地域農業振興協議会技術者会畜産部会が組織された。

部会が取り組む肉用牛生産振興のテーマは①規模拡大の推進と地域一貫生産体制の確立、②高齢化・規模拡大等に対応した地域サポートシステムの確立、③高品質の子牛生産の 3 つである。特に地域肉用牛一貫生産の推進については、平成 4 年に農協の肥育センターが開設され、島内で生産される子牛価格の買い支えになっているほか、この肥育センターから出荷される肥育牛の枝肉成績が 4・5 等級率で平均 69%（全国平均 53.2%　長崎平均 45.9%）となり、島内産子牛の産肉能力の高さを証明することになった。

こうした活動から飼養頭数についても昭和 55 年の 12,628 頭から一時は 11,513 頭まで減少したものの、平成 14 年には 12,091 頭まで回復し、1 戸あたりの飼養戸数は 4.4 頭から 9.0 頭まで拡大するなど、取り組みの成果をあげている。

■ 最近の取り組み

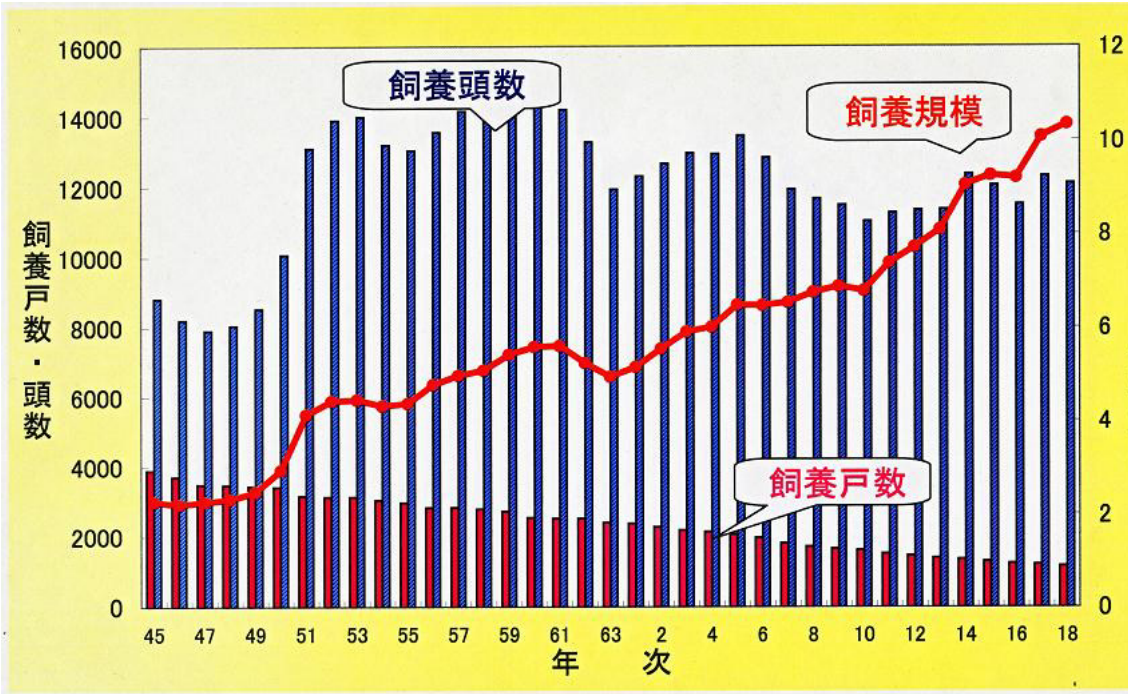
平成 16 年、郷ノ浦町、・勝本町・芦辺町・石田町の 4 町の合併により、4 町 1 農協体制から 1 町 1 農協体制で肉用牛振興に取り組むことになった。その後も従来の体制を強化しつつ取り組みを進めている。特に壱岐市の農業は年々畜産のウェイトを高めていることから、地域農業振興協議会の畜産部会の活動は最も活発なものとなっている。



【壱岐地域における肉用牛飼養戸数と頭数の推移】

飼養戸数は引き続き減少傾向にあるが、1 戸あたりの飼養頭数は平成 18 年/14 年が 121.1%と伸びている。

＜1 戸あたりの飼養頭数＞



【農業産出額の推移】

肉用牛を除く作目では減少傾向であるが、肉用牛は 138.8%と、この 5 年間で大きく伸びている。

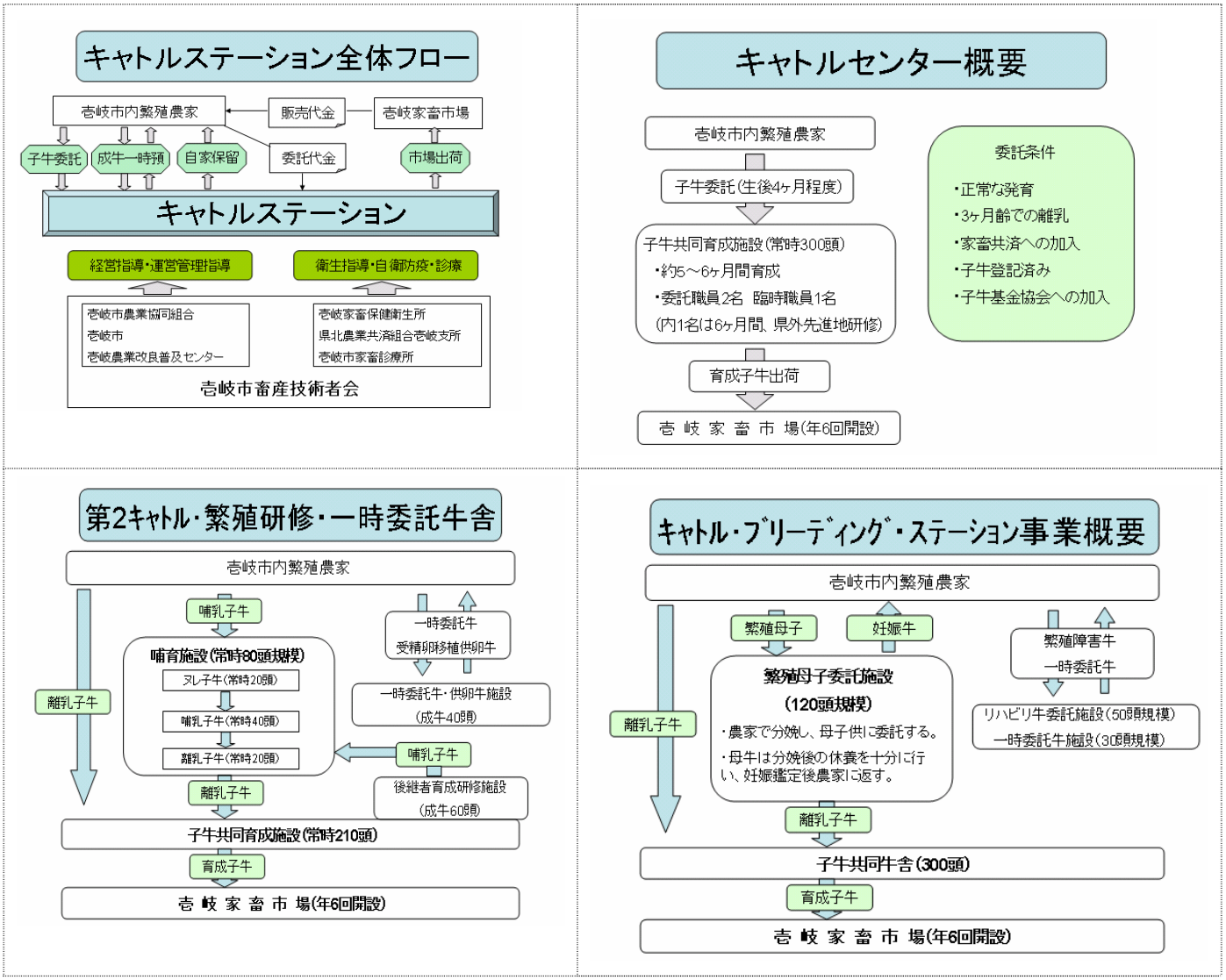
区分	17 年		12 年		17 年/12 年比
	実数	構成比	実数	構成比	
農業産出額	63.0	100.0	59.6	100.0	94.6
肉用牛	29.7	47.1	21.4	35.9	138.8
米	15.7	24.9	16.6	27.9	94.6
葉たばこ	6.7	10.6	8.6	14.4	77.9
その他	10.9	17.3	13.3	21.8	82.0

（単位・億・%）

【肉用牛振興の総合的な取り組み】

肥育農家の更なる要望に応えるため、去勢牛肥育センターに続き、平成 17 年には雌牛肥育センターの設置にも取り組み、地域内産子を肥育牛として飼養している。更にキャトルステーション機能の充実を図るため、平成 15 年、第 2 キャトルステーション事業にも着手、従来のキャトルステーションでの 300 頭に加え、210 頭の預かりが可能となった。その中では従来の離乳子牛を預かるシステムに加え、生後間もない哺乳子牛を預かりキャトルステーションまで連動していくシステムや、農家の病気時等に対応した繁殖牛の一時預かりシステム（一時預託）、後継者育成のための繁殖育成研修施設も含まれている。

更に平成 18 年度からは「キャトルブリーディングステーション事業（CBS 事業）」を計画、120 頭規模の繁殖母子委託施設を設置し、母牛は分娩後の休養を十分に行い、妊娠鑑定後に農家に帰し、子牛は早期に離乳させキャトルステーションで育成する等の計画を進めている。



■ 成果の内容と今後の課題について

以上のような取り組みの成果は、安定した肥育成績にもあらわれているほか（下図参照）、子牛の購買者からは「子牛が群飼いに慣れている」など、好評を得ている。

また当該地域は、農業従事者人口のうち65歳以上の人口が約65%と高齢化が進んでいるうえ、殆どが 10 頭未満の兼業農家である。そういった状況の中、一時預かりのシステム等の充実により農家の安心が確保されている。

今後の取り組みにおける課題として、一つにはコントラクター組織の整備による粗飼料の確保が挙げられる。現在、島内に散らばる機械利用組合の統合や、飼料作の土地面積の集積も検討されている。

次に、このまま高齢化が進んで行った際の頭数減少の懸念もある。一市場開催当り 800 頭（年間 5,000 頭）の子牛上場を確保するという観点で、更なる支援体制の充実も検討されている。

肥育センター肥育成績：去勢

平成16年度

等級	頭数	導入時		出荷時		枝肉				肉質等級		
		体重(kg)	金額(千円)	体重(kg)	肥育日数	重量(kg)	単価(円)	金額(千円)	歩留(%)	ロース芯	バラ厚	BMS
5	31	277	404	729	573	475	2312	1098	65.2	60	8.3	8.9
4	69	276	413	709	577	455	1987	908	64.2	51	7.9	5.9
3	35	278	410	706	569	452	1847	836	64.0	47	7.6	4.0
2	5	266	402	728	595	461	1743	805	63.3	54	7.7	3.8
計・平均	140	277	410	713	574	459	2015	929	64.3	52	7.9	6.0

4・5等級率 71.4%

平成17年度

等級	頭数	導入時		出荷時		枝肉				肉質等級		
		体重(kg)	金額(千円)	体重(kg)	肥育日数	重量(kg)	単価(円)	金額(千円)	歩留(%)	ロース芯	バラ厚	BMS
5	40	270	437	779	612	492	2335	1150	64.8	58	8.6	8.7
4	59	272	436	746	613	484	2043	989	64.9	52	8.1	6.1
3	35	252	400	668	591	421	1729	779	62.0	46	7.3	3.8
2	1	241	449	518	417	329	1800	591	63.4	39	7.0	2.0
計・平均	135	271	435	744	608	481	2120	1022	64.6	53	8.2	6.7

4・5等級率 73.3%

平成18年度

等級	頭数	導入時		出荷時		枝肉				肉質等級		
		体重(kg)	金額(千円)	体重(kg)	肥育日数	重量(kg)	単価(円)	金額(千円)	歩留(%)	ロース芯	バラ厚	BMS
5	33	275	479	756	604	493	2462	1212	65.2	58	8.5	8.7
4	71	273	468	739	588	480	2085	1002	64.9	51	8.1	5.9
3	54	275	477	725	585	462	1857	859	63.7	47	7.7	3.9
2	6	272	459	694	571	431	1563	674	62.0	43	7.4	2.5
計・平均	164	274	473	736	589	475	2067	985	64.5	51	8.1	5.7

4・5等級率 63.4%

肥育センター肥育成績：雌

平成16年度

等級	頭数	導入時		出荷時		枝肉				肉質等級		
		体重(kg)	金額(千円)	体重(kg)	肥育日数	重量(kg)	単価(円)	金額(千円)	歩留(%)	ロース芯	バラ厚	BMS
5	2	256	346	635	600	423	2656	1117	66.6	57	7.8	9.0
4	1	261	341	670	599	422	2071	874	63.0	59	7.7	7.0
3	2	244	331	580	601	370	1740	644	63.7	48	6.9	4.0
2												
計・平均	5	252	339	620	600	401	2172	879	64.7	54	7.4	6.6

4・5等級率 60.0%

平成17年度

等級	頭数	導入時		出荷時		枝肉				肉質等級		
		体重(kg)	金額(千円)	体重(kg)	肥育日数	重量(kg)	単価(円)	金額(千円)	歩留(%)	ロース芯	バラ厚	BMS
5	20	253	340	682	613	438	2345	1025	64.2	56	8.2	8.6
4	27	253	333	679	619	438	2082	914	64.5	55	7.8	6.3
3	27	256	345	680	613	435	1881	900	64.0	47	7.7	4.1
2	3	274	355	620	595	400	1605	642	64.5	38	6.5	3.0
計・平均	77	254	340	679	616	437	2103	920	64.3	53	7.9	6.4

4・5等級率 61.0%

平成18年度

等級	頭数	導入時		出荷時		枝肉				肉質等級		
		体重(kg)	金額(千円)	体重(kg)	肥育日数	重量(kg)	単価(円)	金額(千円)	歩留(%)	ロース芯	バラ厚	BMS
5	20	250	383	667	625	443	2350	1041	66.3	60	7.7	8.9
4	36	255	372	657	617	435	2055	894	66.1	52	7.7	6.1
3	23	260	381	652	587	420	1788	751	64.3	45	7.2	3.9
2	3	241	362	642	579	420	1628	686	65.4	39	7.7	3.0
計・平均	82	255	377	656	610	432	2036	882	65.7	51	7.6	6.1

4・5等級率 68.3%

■ 本事例の取り組みの意義～活動内容に学ぶ他の地域への波及の可能性

壱岐での取り組みは五島、宇久島などでも広がりつつある。肉用牛関係者による視察を行い、五島では子牛共同育成施設（キャトルステーション）を設置するなど、地域での分業型経営システムの構築や、地域全体の活性化を含めた取り組み内容が波及している。長崎県は多くの離島を抱えており、高齢化や後継者不足といった多くの肉用牛繁殖農家が抱える問題に加えて、出荷コスト等離島ゆえの問題を抱える地域も少なくない。長崎県畜産協会では従来の農家の個別指導に加え、県の地域振興、離島は和牛増頭のメッカといった観点から、地域ごとのきめ細やかなコンサルティングも検討している。当該事例は県内での地域振興の先進事例である。今後はさらに地域内一貫体制を確立し、繁殖用成雌牛 8,000 頭、子牛出荷頭数を 5,500 頭まで増やすことを目的に取り組みを進めている。

共同育成施設子牛（キャトルステーション）

堆肥舎

前処理に利用する密閉型縦型コンポスト

地域内肉用牛繁殖農家の低コスト牛舎（平成 14 年度事業で導入）